



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月13日

上場会社名 株式会社豆蔵デジタルホールディングス 上場取引所 東
コード番号 202A URL <https://www.mamezo-dhd.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中原 徹也
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 泉 健憲 TEL 03-6258-1134
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	2,888	6.3	538	0.8	540	5.6	364	8.8
2025年3月期第1四半期	2,717	—	533	—	511	—	334	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 364百万円 (8.8%) 2025年3月期第1四半期 334百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	22.70	22.15
2025年3月期第1四半期	20.93	20.42

- (注) 1. 当社は、2024年3月期第1四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2025年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 当社は、2024年4月15日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。
3. 当社は、2024年6月27日付で東京証券取引所グロース市場に上場したため、2025年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、新規上場日から2025年3月期第1四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	4,456	2,810	63.1
2025年3月期	4,712	3,409	72.3

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 2,810百万円 2025年3月期 3,408百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	60.00	60.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	30.00	—	31.00	61.00

- (注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
配当予想の修正については、本日（2025年8月13日）公表しております「配当予想の修正（中間配当の実施）」に関するお知らせをご覧ください。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、2025年10月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズの3社の吸収合併を予定しており、合併後は単体で業績を開示することとなるため、2026年3月期の連結業績予想は行っておりません。なお、仮に2026年3月31日まで連結決算を継続した場合の連結業績予想は、以下の通りとなります。

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	11,607	10.0	2,142	3.5	2,140	4.3	1,447	0.9	90.17

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	16,050,000株	2025年3月期	16,050,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	—株	2025年3月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	16,050,000株	2025年3月期1Q	16,002,747株

（注）当社は、2024年4月15日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期中平均株式数（四半期累計）を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、資料P. 4「1.（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(追加情報の注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善に加え、各種政策の効果も相まって、緩やかな回復基調で推移しました。一方、米国と各国間の関税をめぐる動向が注視されるなか、中東及びウクライナ情勢を背景とする地政学的リスクも継続しており、先行きには不透明感はありますが、明るい兆しも見え始めています。

当社グループが展開する事業領域に関連するDX（注1）市場では、DXを通じた業務改革や新たなビジネスの創出が重要視され、企業のIT投資は引き続き高水準を維持しています。レガシーシステムの刷新、クラウドサービスにおけるデータ利活用の拡大、AI（注2）の社会実装と応用領域の拡大、車載ソフトウェア市場の成長、ロボット導入ニーズの高まりなど、市場は依然として活発な動きを見せています。一方で、IT人材の不足や、多品種少量生産といったロングテール市場におけるロボット導入の難しさなど、構造的な課題の解決が求められています。

このような市場環境のもと、当社グループは「CREATE THE FUTURE TOGETHER～AIソフトウェア工学のチカラで、共にデジタル世界を創造する～」をミッションに掲げ、技術力という武器を十分に活用しつつ、グループ各社の資産や組織能力を深化させ、最新のコンピュータ技術を駆使し、情報サービス関連事業を通じてお客様企業の業務を変革するサービスの提供を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間において売上高は2,888,097千円（前年同期比6.3%増）、営業利益は538,063千円（前年同期比0.8%増）、経常利益は540,104千円（前年同期比5.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は364,326千円（前年同期比8.8%増）となりました。

当社グループは情報サービス関連事業の単一セグメントですが、サービス区分別の経営成績は次の通りであります。

（クラウドコンサルティング）

当第1四半期連結累計期間は、一般事業法人を対象とした基幹システム刷新に伴う基盤構築案件を中心に、クラウドネイティブ環境を前提とした高難度な技術支援の受注が堅調に推移しました。生成AIを活用したサービス変革と収益構造の変革にも取り込んでいます。また、Microsoft社のERP（注3）ソリューション「Microsoft Dynamics 365 Finance、Microsoft Dynamics 365 Supply Chain Management」の導入支援サービス案件受注も順調に推移しています。

その結果、売上高は1,146,862千円（前年同期比4.5%増）、売上総利益は459,027千円（前年同期比8.7%増）となりました。

（AIコンサルティング）

当第1四半期連結累計期間は、生成AIを活用した共創型プロジェクトが高く評価され、生成AIの導入や業務設計、PoC（概念実証）に関する支援案件の受注が好調に拡大しました。

その結果、売上高は193,097千円（前年同期比15.7%増）、売上総利益は69,899千円（前年同期比48.0%増）となりました。

（AIロボティクス・エンジニアリング）

当第1四半期連結累計期間は、ロボット導入による自動化支援案件の受注が堅調に推移しています。また、自動車分野では大手OEMメーカーからの電気自動車関連案件の規模拡大に加え、戦略的人材育成支援案件の受注も業績に寄与しました。一方、AIロボティクス領域においては戦略的投資を進めていることから、一時的に売上総利益が抑制されました。

その結果、売上高は462,800千円（前年同期比9.2%増）、売上総利益は100,912千円（前年同期比13.7%減）となりました。

（モビリティ・オートメーション）

当第1四半期連結累計期間は、車載システムの企画・開発支援に加え、自動車・船舶業界向けの製品開発支援が好調に推移しました。特にCASE（注4）関連の次世代車両開発支援や、IoTデバイス、ADAS（注5）、自動運転技術の支援案件の受注が増加しています。

Electric領域では、MBSE（注6）を活用したモーター制御支援も引き続き堅調に推移しております。船舶業界では、自動運転・電動化技術に関する支援案件の受注も継続しています。さらに、ファクトリーオートメーション分野では、スマートファクトリー構築に向けたネットワーク化やリアルタイム情報共有環境の提供が高く評価されました。

その結果、売上高は1,085,336千円（前年同期比5.4%増）、売上総利益は360,615千円（前年同期比5.7%増）となりました。

それぞれのサービスの事業領域は以下の通りとなります。

サービス区分	事業の内容
クラウドコンサルティング	幅広い業種の大手企業に対して、クラウドをはじめとする最先端技術を活用した内製化推進コンサルティング、ERP導入、教育サービス等をご提供しています。 対象会社：株式会社豆蔵、株式会社エヌティ・ソリューションズ
AIコンサルティング	デジタルトランスフォーメーションを推進する企業に対して、AIを活用したデータ利活用・システムの企画、設計、アルゴリズムの開発およびコンサルティング、生成AI導入支援サービスをご提供しています。 対象会社：株式会社豆蔵
AIロボティクス・エンジニアリング	自動車・ロボット等の組込系システムを扱う企業に対してAIソフトウェア開発の技術導入支援、モデルベース開発（MBSE）、プロセス改善等のコンサルティング及び開発をご提供しています。 対象会社：株式会社豆蔵
モビリティ・オートメーション	自動車・航空宇宙・船舶分野に関連したAIソフトウェア・ハードウェアの開発支援並びに教育サービス、ファクトリーオートメーション実現に向けたコンサルティングをご提供しています。 対象会社：株式会社コワメックス

- (注) 1. DX：Digital Transformationの略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
2. AI：Artificial Intelligenceの略。人間の知的能力をコンピュータ上で実現する、様々な技術・ソフトウェア・コンピュータシステムのこと。
3. ERP：Enterprise Resource Planningの略。企業全体を経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念のこと。転じて、これを実現するための統合型（業務横断型）ソフトウェア（統合基幹業務システム）を「ERPパッケージ」もしくは「ERP」と呼ぶ。
4. CASE：Connected(コネクティッド)、Autonomous(自動運転)、Shared(カーシェアリングとサービス)、Electric(電気自動車)という、自動車業界の今後の方向性を定義づける4つのテーマの頭文字を繋げた用語。
5. ADAS：Advanced Driver-Assistance Systemsの略。先進運転支援システム。ドライバーの安全性を確保するための運転支援機能の総称。車間距離の自動制御装置、前方衝突の警告機能、衝突回避のための自動ブレーキ機能、道路標識を自動認識して警告する機能などがある。
6. MBSE：Model-Based Systems Engineeringの略。開発過程で検討対象となるあらゆるものをモデル化して取り扱う考え方で、複数のシステムが相互に関連しあってサービスを提供するような複雑なシステムを構築するのに有用な手法。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は4,456,720千円となり、前連結会計年度末に比べ255,678千円減少いたしました。流動資産は269,874千円減少、固定資産は14,195千円増加しております。主な要因は流動資産においては現金及び預金が401,248千円減少、売掛金が28,725千円増加、契約資産が117,365千円増加、固定資産においては開発中の設備が完成し機械及び装置（純額）が70,385千円増加した一方、建設仮勘定が82,087千円減少、開発中のソフトウェアが完成しソフトウェアが252,489千円増加した一方、ソフトウェア仮勘定が261,496千円減少、繰延税金資産が40,999千円増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債総額は1,646,270千円となり、前連結会計年度末に比べ342,995千円増加いたしました。主な要因は流動負債において短期借入金が増加、未払法人税等が減少、未払消費税等が増加、賞与引当金が増加したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は2,810,450千円となり、前連結会計年度末に比べ598,673千円減少いたしました。主な要因は利益剰余金が配当金支払等により減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2025年10月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズの3社の吸収合併を予定しており、合併後は単体で業績を開示することとなるため、2026年3月期の連結業績予想は行っておりません。

仮に2026年3月31日まで連結決算を継続した場合の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間における売上高、利益とも計画どおりに推移しておりますので、変更はありません。

なお、当連結業績予想につきましては、同資料の発表時点において当社が入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,832,835	1,431,586
売掛金	1,466,943	1,495,668
契約資産	88,192	205,558
製品	20,011	28,263
仕掛品	60,040	49,649
原材料	30,653	21,121
その他	181,661	178,616
流動資産合計	3,680,339	3,410,465
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	101,410	99,105
機械及び装置（純額）	69,283	139,668
工具、器具及び備品（純額）	20,867	18,679
リース資産（純額）	2,626	2,474
建設仮勘定	82,087	—
有形固定資産合計	276,273	259,926
無形固定資産		
ソフトウェア	75,170	327,660
ソフトウェア仮勘定	261,496	—
その他	1,040	1,012
無形固定資産合計	337,708	328,672
投資その他の資産		
繰延税金資産	174,471	215,471
その他	243,606	242,184
投資その他の資産合計	418,078	457,656
固定資産合計	1,032,060	1,046,255
資産合計	4,712,399	4,456,720

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	179,478	202,260
短期借入金	100,000	300,000
リース債務	666	666
未払金	105,293	91,635
未払費用	118,106	122,019
未払法人税等	298,777	227,396
未払消費税等	180,787	217,181
賞与引当金	258,973	393,711
受注損失引当金	1,499	—
その他	47,719	79,540
流動負債合計	1,291,302	1,634,412
固定負債		
リース債務	2,222	2,055
資産除去債務	9,750	9,803
固定負債合計	11,972	11,858
負債合計	1,303,275	1,646,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	130,714	130,714
資本剰余金	31,214	31,214
利益剰余金	3,246,969	2,648,295
株主資本合計	3,408,897	2,810,223
新株予約権	226	226
純資産合計	3,409,124	2,810,450
負債純資産合計	4,712,399	4,456,720

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自2024年4月1日 至2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自2025年4月1日 至2025年6月30日）
売上高	2,717,810	2,888,097
売上原価	1,790,091	1,897,643
売上総利益	927,719	990,454
販売費及び一般管理費	394,109	452,390
営業利益	533,610	538,063
営業外収益		
助成金収入	4,797	250
保険配当金	—	2,157
その他	60	126
営業外収益合計	4,857	2,533
営業外費用		
支払利息	115	162
コミットメントフィー	276	297
上場関連費用	25,406	—
その他	1,382	32
営業外費用合計	27,181	492
経常利益	511,286	540,104
特別損失		
固定資産除却損	7,737	0
特別損失合計	7,737	0
税金等調整前四半期純利益	503,549	540,104
法人税、住民税及び事業税	194,172	216,778
法人税等調整額	△25,619	△40,999
法人税等合計	168,552	175,778
四半期純利益	334,996	364,326
親会社株主に帰属する四半期純利益	334,996	364,326

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自2024年4月1日 至2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自2025年4月1日 至2025年6月30日）
四半期純利益	334,996	364,326
四半期包括利益	334,996	364,326
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	334,996	364,326

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループの事業内容は情報サービス関連事業のみであり、区分すべき事業セグメントは存在しません。従って報告セグメントも単一であるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
減価償却費	20,340千円	18,543千円

(追加情報の注記)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2025年3月31日開催の取締役会において、2025年10月1日（予定）を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズの3社を吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結いたしました。

1. 取引の概要

(1) 合併の目的

当社グループは、自動車業界をはじめ、製造、金融、商社など幅広い業界に向けて、クラウドコンサルティング、AIコンサルティング、AIロボティクス・エンジニアリング、モビリティ・オートメーションの4つのサービスを軸に、高付加価値なサービスとソリューションを提供してまいりました。また、グループ内の構造改革と事業変革を推進し、事業の成長と収益の向上を実現してまいりました。その結果、2024年6月27日に、東京証券取引所グロス市場への株式上場を果たしました。今後は、社会環境の変化を新たな価値創造の機会と捉え、経営資源の合理化及び効率化、並びに技術の融合を図るため、完全子会社3社を当社に吸収合併し、持株会社体制から事業会社体制へ移行することを決定しました。本合併により、当社グループがこれまで培ってきた経営資源を統合し、シナジーを最大限に活かすことで、Tier0.5戦略を推進し、さらなる成長を目指してまいります。

(2) 本合併の要旨

①本合併の日程

取締役会決議日	2025年3月31日
合併契約締結日	2025年3月31日
合併予定日（効力発生日）	2025年10月1日（予定）

本合併は、当社においては会社法第796条第2項に定める簡易合併であり、株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズにおいては、会社法第784条第1項に定める略式合併であるため、いずれも合併契約に関する株主総会の承認を得ることなく実施します。

②本合併の方式

当社を存続会社、株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズを消滅会社とする吸収合併であり、本合併により株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズは解散いたします。

③本合併に係る割当の内容

株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズは、当社の完全子会社であるため、本合併に際して、株式の発行及び金銭その他の財産の交付は行いません。

（3）合併後の状況

本合併後、当社は株式会社豆蔵、株式会社コーワメックス及び株式会社エヌティ・ソリューションズが営む事業を承継し、持株会社から事業会社に移行します。

なお、本合併による当社の所在地、代表者、資本金及び決算期の変更はありませんが、商号を「株式会社豆蔵」に変更する予定です。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号2024年9月13日）に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。